

J R 加古川線利用促進に係る今後の取組の方向性

資料1

第1回WT会議での主な意見

- **事業実施の方向性**
 - ・利用促進策は、1年だけではなく毎年継続した実施が必要
 - ・鉄道の維持には、日常利用の増加が必要であるが、地域の活性化や賑わいを考えるとイベントも必要で、両面で進めていくことが重要
 - ・イベントへの協力など、利用促進に全力で取り組んでいく。
- **気運醸成**
 - ・乗ることが公共交通に対する投資という感覚を住民で共有したい。
 - ・地域の住民が自分事として関心を持ち、実行に移すことが必要
 - ・WTで決まったことは住民に伝え、利用促進のため少しでも参加していただき、鉄道利用を勧めていきたい。
- **トピックス**
 - ・加古川線全線開通100周年という節目の年なので、行事を検討
 - ・利用促進のため、駅前の施設整備が課題

令和5年度施策を踏まえた主な課題

- **事業実施の方向性**
 - ・「通学定期券購入補助事業」を4月から開始。対象が市内在住者に限定されるため、広域での利用促進につながるしくみの検討が必要
 - ・通勤客をターゲットにした「リレーマルシェ」を8月（久下村駅前）、12月（谷川駅前）に開催。多数の鉄道利用を喚起し、多くの参加者があったため、継続開催に向けた仕組みづくり等が必要
 - ・地元高校生を対象とした「サイクルトレイン実証実験」を10月に実施。安全性の問題や、運行に支障がないことから、引き続きサイクルトレイン実現に向け検討する。
 - ・沿線企業・住民に呼びかける「利用促進ウイーク」を10月に開催。播州織の中吊り広告が好評であった。また、地元紙に掲載されるなど、地域住民にも情報発信ができた。ウイーク期間中、輸送密度が1.17倍になった日もあるなど、乗車に向けた意識啓発への相乗効果もあり、継続実施が効果的である。
 - ・沿線イベントに合わせた「イベント連携乗車デー（鉄道と恐竜のコラボ企画）」を10月に開催（日本へそ公園駅前）。参加者の65%の方が鉄道を利用するなど、連携により効果的な事業実施が図れたことから、他のイベントにおいても相互連携の強化が必要

令和5年度施策を踏まえた主な課題（続き）

- **気運醸成**
 - ・地域住民が主体となり、電車を利用したハイキングや餅つき大会等のイベントを11月に実施（黒田庄駅前）。地域住民主体のイベントがマイルール意識等の盛り上がりにもつながる。より多くの住民を巻き込むための仕掛けが必要
 - ・地域の若手起業家が中心となった「わが町考え隊」が9月に活動開始。12月開催したワークショップが好評であった。住民への活動の周知や連携の拡がり期待され、地元意識の高揚のため、継続した取組が必要

令和6年度以降の取組の方向性

- **鉄道利用の気運醸成と利用促進への支援**

高校生等の通学、沿線企業従業員の通勤などの日常利用促進や、地域住民が主体となった駅周辺の賑わいづくりに対する支援を通じて、鉄道利用の気運醸成と継続した利用促進につなげる。
- **イベント等の連携・情報発信等協力体制の強化**

各団体が実施するイベント等での相互連携、他の団体の取組とのコラボ、チラシの配布、記者発表等の協力体制を強化する。
- **統一したキャッチフレーズによる利用促進気運の醸成**

地域住民に本当に関心を持ってもらい、また、利用促進の取組を一体感のあるものとするため、統一したキャッチフレーズを作成し、あらゆる機会を通じて発信する。
- **加古川線全線開通100周年を契機とした利用促進策の展開**

特に、令和6年度は加古川線全線開通100周年の節目であることから、各団体が行う事業に、「おめでとう！加古川線全線開通100周年」等のフレーズを掲げるなどにより、JRと連携して、さらなる利用促進を図る。